

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人三重県文化振興事業団	
施 設 名	三重県総合文化センター 三重県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	28,621	(千円)
公演事業	20,363	(千円)
人材養成事業	4,779	(千円)
普及啓発事業	3,479	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	三重県出身演奏家シリーズ・スペシャル 指揮者・ピアノ/長崎貴洋と三重県文化会館管弦楽団	7/14 (日)	曲目: J. S. バッハ/ブランデンブルグ協奏曲第3番ほか コンサートマスター: 植村太郎(ヴァイオリン)	目標値	814
		大ホール		実績値	636
2	三重県文化会館 produce 日本人ソリストシリーズ (仮)	4月~2月	出演者: ヴァイオリン/服部百音、ピアノデュオ/反田恭平・務川慧悟 ほか	目標値	2,464
		大ホール		実績値	3,162
3	劇団ロロ「いつ高」シリーズ 劇団 ver. ×三重選抜 ver. 同時上演	8/24 (土)・25 (日)	作・演出/: 三浦直之 出演: 森本華 (ロロ) ほか	目標値	200
		小ホール		実績値	308
4	村田沙耶香×松井周 新作ツアー公演	12/14 (土)・15 (日)	原案: 村田沙耶香、松井周 作・演出: 松井周 出演: 金子岳憲ほか	目標値	315
		小ホール		実績値	301
5	納涼 茂山狂言会 特別三重公演	7/20 (土)	演目: 蝸牛ほか 出演: 茂山千作ほか	目標値	728
		中ホール		実績値	562
6	ミエ演劇ラボ 2020 発表公演	公演中止	タイトル: 「超現代」試演会Ⅱ 構成・演出: 柳沼昭徳 演出助手: 澤 雅展	目標値	110
		小ホール		実績値	0
7	ニューイヤーコンサート 2020 新日本フィルハーモニー交響楽団	1/13 (月)	指揮: 阪 哲朗 ソプラノ: 幸田浩子 曲目: 「美しく青きドナウ」ほか	目標値	1,215
		大ホール		実績値	1,538
8	久石譲指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会	公演延期	※延期	目標値	1,597
		大ホール		実績値	0
9	第七劇場 劇団設立 20 周年 チェーホフ「ワーニャおじさん」	7/14 (日)・15 (月)	構成・演出・美術: 鳴海康平 出演: 小菅紘史ほか	目標値	315
		小ホール		実績値	418
10	朗読アウトリーチ M-PAD2019	11月	演目: 向田邦子作「大根の月」ほか 出演: あべゆう (こふく劇場) ほか	目標値	400
		県内飲食店等		実績値	561
11	トリエステ・ヴェルディ歌劇場 オペラ「椿姫」	11/10 (日)	指揮: ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ 出演: ジェシカ・ヌッチオほか	目標値	1,231
		大ホール		実績値	985
12	パルコプロデュース「世界は一人」	4/9 (火)	作・演出: 岩井秀人 出演: 松尾スズキ、松たか子ほか	目標値	792
		中ホール		実績値	848
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>私どもが第5期指定管理者（令和2年度～令和6年度）中長期事業計画で掲げるミッションは以下3点である。</p> <ol style="list-style-type: none">① 県民に愛され、誇りとなる劇場づくり② 文化交流ゾーン連携と拠点機能の強化③ アートの社会的効用の発揮 <p>① に関して、平成31年度は新型コロナウイルスの影響で年度末にほぼ休館状態となったものの、施設稼働率は年間77.8%と高い稼働を記録し、年間来場者数も690,604人と、県民が集い賑わう劇場づくりに成功している。</p> <p>② に関して県内では当館でしか開催が難しい海外オペラ・バレエ、オーケストラ公演を開催したほか、「加羽沢美濃のクラシック音楽講座 in 松阪」「みえ県展桑名移動展」「津市小学生無料招待公演 劇団四季こころの劇場」など市町との共催事業を多数実施した。</p> <p>③ に関して「アートと教育」では学校アート出前授業を69校で開催し、3,202人の児童が参加した。「アートと福祉」では「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトに取り組んだ。</p> <p>以上の通り、ミッションに即して効果的な事業展開が図られていると自己分析している。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>助成財源のおかげで、予算規模が大きいものの当館のミッションから取り組むべき新規事業を創出している。海外招聘オペラ・バレエ公演をはじめ、県内洋楽関係者と当館による自主企画「三重県出身演奏家シリーズ」、三重県高等学校演劇連盟と共催した「劇団ロロいつ高シリーズ2本立て公演」、当館が4都市ツアーの幹事劇場となった「村田沙耶香×松井周 新作ツアー公演」などの新規事業を開催することができた。</p> <p>また、人材養成事業では劇団青年団が監修する年8回のシリーズ講座「戯曲アカデミア」を開催したほか、普及啓発事業では高齢社会に対しアートの社会的効用を発揮し、その検証を行う「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトの最終年度に取り組み、助成財源によって文化的・社会的・経済的意義のある活動を積極的に展開している。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1) 公演事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ① 年間公演満足度（5段階評価上位2位） 目標95%以上に対し、95.5%
- ② 年間公演満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、67.7%
- ③ 劇場会員制度「シアターメイツ」会員数 目標2,600人以上に対し、2,629人
- ④ インターネットチケット販売システム「エムズネット」 目標会員数13,000人以上に対し、16,167人

公演事業では全ての目標を達成した。

2) 人材養成事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ① 年間事業参加者満足度（5段階評価上位2位） 目標90%以上に対し、97.8%
- ② 年間事業参加者満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、72.6%

いずれも目標を大きくクリアしている。

3) 普及啓発事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ① 年間事業参加者満足度（5段階評価上位2位） 目標90%以上に対し、97.8%
- ② 年間事業参加者満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、72.6%
- ③ 文化体験パートナーシップ活動推進事業における指標 事業実施校 目標のべ70校に対し、69校

文化体験パートナーシップ活動推進事業は1校未達であった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間】

平成31年度事業計画に対し、台風の影響で1事業が中止となったほか、新型コロナウイルスの影響で6事業が中止・延期を余儀なくされた。その他事業は全て計画通りの期間と開催日で実施した。

【事業費】平成31年度事業計画の各数値と事業報告の各数値は以下の通りとなった。

- ① 年間総事業費 計画226,252,720円に対し、報告195,062,242円
- ② 年間総収入 計画158,992,172円に対し、報告148,861,915円
- ③ 年間収支差額(①-②) 計画67,260,548円に対し、報告46,200,327円

台風及び新型コロナウイルスの影響で7事業が中止・延期となったため、計画対比で収支ともに減少した。一方で、2月までの公演のチケット売れ行きは好調であったため、事業中止による支出減少に比べてチケット収入減少は小さく、結果として年間収支差額(赤字額)は2千万円強小さくなった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

現館長の梶吉宏が平成13年度に就任し、㈱ヤマハや音楽之友社在籍時代からの音楽人脈と館長就任後に築き上げた地元音楽団体との強固なパートナーシップを基に、次々と三重オリジナルの企画を立ち上げている。三重ジュニア管弦楽団の指揮者兼事務局長として育成に関わるほか、100回を超えた看板シリーズ「ワンコインコンサート」を立ち上げ、地元音楽団体と連携した0歳児から入場可能な「ヘンゼルとグレーテル スライドコンサート」や、「三重県出身演奏家シリーズ」などオリジナルコンサートを次々とプロデュースしている。また、昭和音大卒の音楽プロデューサーの鈴木智之が「加羽沢美濃のクラシック講座」や「三重県文化会館 produce ソリストシリーズ」を新たに企画するなど、若手職員も専門性を活かして活躍している。

演劇分野では現副館長兼事業課長の松浦茂之が平成19年度に現部署に異動し、全国的にも注目を集める多彩な事業を展開している。小ホール24時間連続使用による「Mゲキセレクション」をはじめ、地元演劇人育成と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」、アウトリーチプログラム「料理を楽しむ 演劇を楽しむ 秋のおたのしみ M-PAD」、高齢社会に対するアートの効用を実践検証する「‘介護を楽しむ’ ‘明るく老いる’アートプロジェクト」等をプロデュースしている。

フランチャイズ団体としては平成9年に新日本フィルハーモニー交響楽団と関西拠点契約を締結し、年2回の定期演奏会、三重ジュニア管弦楽団の指導、新日本フィル演奏クリニックなどの人材養成事業に力を入れている。また東京から三重へ拠点移動した劇団・第七劇場は準フランチャイズカンパニーとして位置付けており、日台国際共同制作演劇など毎年新作公演を当館がプロデュースしている。その他、劇団・青年団とは平成13年度から強固なパートナーシップを構築しており、隔年での劇団公演開催をはじめ、平田オリザ氏が講師を務める「青年団監修 戯曲アカデミア」など人材養成事業に協力いただいている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

三重県には芸術文化専門の大学や芸術文化の学部・学科を設けている高等教育機関がないため、プロアーティストの指導を受けられる機会がほとんどない。このため実演芸術の技量向上を図る機会やアートマネジメントを学ぶ機会の提供は当館にその役割が求められている。当館では三重大学との共催で平成26年から毎年「舞台芸術振興のためのアートマネジメント人材育成講座」を開講しているほか、音楽分野では「新日本フィル演奏クリニック」「三重ジュニア管弦楽団育成事業」などの人材養成事業が地元演奏家の技量向上に寄与している。演劇分野では劇作家輩出を目指した「青年団監修 戯曲アカデミア」、演劇人輩出と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」などの実演家育成に取り組んでいる。

また、長年にわたって県民の自己研鑽の発表の場やコンクール事業にも取り組んでおり、舞台芸術の発表の場となる「みえ県民文化祭」、若手音楽家の登竜門「みえ音楽コンクール」、美術愛好家のための公募展「みえ県展」など多くの事業が地域の文化芸術発展に寄与している。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

指定管理者制度が始まって以来全ての経費が圧縮基調であるのに対し、人件費だけは人員数はそのままで5千万円強増加しており、それらは全て職員の処遇改善や研修支援・福利厚生に充てられている。当事業団の経営改革や組織改革は先進事例として全国の研修会に招聘され、各地の劇場から視察を受け入れている。下記事例にあるような当事業団独自の組織づくりと人材育成を推進している。

1) 職員登用制度

3年有期雇用の専門員から無期雇用の年俸制専門員へ、更に正規職員へと内部登用制度が整備されており、雇止めが無い、職員のやる気が出る人事制度が確立している。

2) 研修制度

当事業団はISO9000の認証登録を受けており、全ての職員の業務要件が明確化され、不足している業務スキルに対して個人ごとに①集合研修、②外部派遣研修、③OJTの年間研修計画が組まれている。資格取得や海外派遣研修も積極的に推奨しており、充実した研修制度となっている。

3) 福利厚生制度

職員の自己研鑽活動に対して、一人年間2万5千円を支給するカフェテリアプランをはじめ、復職再雇用制度（ジョブ・リターン）など、職員の働きやすさや満足度向上に取り組んでいる。